

平成23年度・第3回小平市立学校給食共同調理場運営委員会議事要録

開催日 平成24年2月7日（火）午後3時30分～午後4時45分

会 場 小平市立学校給食センター会議室

出欠席 出席者9名 欠席者 4名 事務局 2名

傍聴者 なし

次 第 議題

1 委員長 挨拶

2 議題

協議事項

①平成24・25年度中学校給食用食材納入業者の選定について

②平成24年度中学校給食実施計画（案）について

報告事項

校給食センターからの報告

議 事 要 録

所長

只今から、第3回小平市立学校給食共同調理場運営委員会を開催いたします。

最初に、委員長からご挨拶をいただきたいと思います。委員長、よろしくお願ひいたします。

委員長

皆様、こんにちは。今、学校ではインフルエンザが流行しています。小学校で多くの児童が罹患しているようですが、中学校は、小学校程ではありませんが、一部の学校で学級閉鎖が出ているようです。まだまだ、この先流行が続くと思われまふので、心配しているところです。本日の委員会は、給食用食材納入業者の選定についてと、平成24年度中学校給食の実施計画が議題としてございますので、よろしくお願ひいたします。

所長

委員長、ご挨拶ありがとうございました。

それでは、委員会の進行を委員長にお願いしたいと思います。

委員長

それでは、「平成24・25年度中学校給食用食材納入業者の選定について」を議題といたします。説明をお願いします。

所長

平成24・25年度中学校給食用食材納入業者の選定につきまして、お手元の資料に添いまして説明をさせていただきます。

11月の運営委員会で、平成24・25年度の食材納入業者募集について、お知らせしたところですが、平成24年1月10日から25日まで申請書の受け付けをいたしました。継続を希望する業者が28社、新規業者が7社ございました。今回、継続を辞退した業者が3社ございました。

継続を希望する28社につきましては、前回の登録時から、業務は良好に推移しており、各保健所の発行する衛生監視票からも衛生状況は良好と判断されますので、問題はないものと思っております。

今回、新規に申請のありました7社につきまして、立地条件、衛生状況、供給能力等を学校給食センターで事前に現地調査を実施しましたので、資料をもとに説明させていただきたいと思っております。

1社目は豆腐関係になります。マルエ食品有限会社で、所在地は小金井市緑町です。創業は昭和43年10月で営業年数は43年になり、従業員は5名です。

店舗では、豆腐、生揚げ、油揚げ等を製造し、小金井市、国分寺市等の小学校や公立昭和病院、大学の食堂等に納品しています。こんにやく製品については、問屋から仕入れたものを納品する形になります。

豆腐等製造設備の他、大型冷蔵庫1基、配達用の保冷車（軽自動車）3台を保有しています。東京都多摩府中保健所発行の「食品衛生監視票」では88点であり、参入条件の80点をクリアしています。

小平市立学校給食センターまでの配送時間は、約30分です。

次は、青果、果実関係の業者になります。有限会社フレッシュショップシマノは、本社が小平市にあり、国立市、日野市、稲城市の3店舗を営んでいます。

創業は平成3年12月で営業年数は20年になり、従業員は25名です。

野菜や果物の仕入れ先である東京多摩青果株式会社は、国立インターチェンジの近くにあり、青果市場から5分という距離に位置し、仕入れや配送が効率的に行える利点があります。店舗の他に、配送車両4台、10坪と3坪の冷蔵庫も完備しています。

産地や品質にこだわった商品を多く陳列しており、お客さんのたえない店舗でありました。今回、給食用食材を納入するにあたり、定年退職する優秀な社

員を再雇用して行くことを前提に、給食の仕事を始めるとのことでした。

小平市立学校給食センターまでの配送時間は、国立店から約30分、東京多摩青果（株）から直送する場合でも約35分程度で配送可能です。

次も、青果、果実関係になります。株式会社丸一青果で、所在地は小平市学園東町です。

創業は昭和43年3月で営業年数は44年になり、従業員は7名です。

野菜や果物の仕入れ先は東京多摩青果株式会社です。店舗内に2坪半の冷蔵庫や根菜類の皮むき機も備えています。自社の配送車両3台と委託の配送車両2台で配送しています。

店舗での販売ではなく、府中市・稲城市、多摩市の各学校給食センター等へ給食用物資の納品を専門に行っています。小平市立学校給食センターまでの配送時間は約10分で、仕入れ先の東京多摩青果株式会社から直送する場合でも約35分位です。

次は、丸宮食品株式会社です。所在地はさいたま市見沼区になります。

創業は昭和26年4月で営業年数は60年になり、従業員は67名です。

水産品、畜産品、農産品、乾物、調味料等、取り扱う品目は多く、総合的な業者です。会社はISO14001を取得しており、衛生環境には十分な配慮をしています。大型の冷蔵庫（730㎡）や冷凍庫2基（110㎡+85㎡）を備え、学校給食、一般の食堂、病院等の用途別に区切られ、温度管理を徹底していました。自社の配送車両38台と委託の配送車両10台で配送しています。

埼玉県内では、さいたま市や所沢市に納品しているが、東京都では武蔵野市、府中市・稲城市等の多摩地区の10市町村の各学校給食センターに給食用物資の納品をしています。平成24年度から小平市立学校給食センターをはじめ、立川市、東大和市等、6市の給食センターに参入を予定しているとのことでした。

小平市立学校給食センターまでの距離が約40kmで配送時間は約1時間15分です。

次は、東京エッグ株式会社です。所在地は西東京市泉町になります。

創業は昭和46年1月で営業年数は42年になり、従業員は31名です。

会社創業以前は養鶏場を営んでいましたが、都市化により養鶏が難しくなり、卵を仕入れ（主に群馬県産）、洗浄、パック詰をしてスーパー等に納めています。東京都内には卵問屋は数件あるが、洗浄からパック詰をして販売する卵屋さんは、この会社のみとのことでした。

洗浄、選別、パック詰とも全て機械化され、人の手を触れることなく製品化されて行きます。また、作業場内の室温管理や従業員に対する衛生管理も徹底

していました。

自社の配送車両2台で配送しています。学校給食への参入は初めてで、小平市立学校給食センター、西東京市、東久留米市、清瀬市、東村山市の5市に業者登録をお願いしています。無理のないよう会社周辺の市に限定しお願いをしている。小平市立学校給食センターまでの配送時間は約35分です。

次の2社につきましては、現地には行かず書類で調査をさせていただきました。1社目は、丸勝かつおぶし株式会社です。所在地は中野区上鷲宮です。

創業は昭和39年3月で営業年数は47年になり、従業員は46名です。

中野区に本社（営業部門）があり、埼玉県東松山市にHACCP認証工場があります。鹿児島県、高知県、静岡県から仕入れかつおぶしを製造しています。椎茸、昆布、煮干しは各産地からの仕入れである。

近隣では、武蔵野市、埼玉県所沢市の給食センターに納品しています。

自社の配送車両28台で配送しています。受注後、東松山工場から中野区の本社へ商品を送り、小平市学校給食センターへ配送することです。時間は約60分です。

次は、東京むさし農業協同組合で、本店は小金井市になりますが、小平支店が実際の窓口になります。創業は平成10年4月で営業年数は13年になり、従業員は395名です。

今回の登録希望は、既に業者登録をしている多摩有機農業研究会、小平市野菜生産者クラブとは別に、JAが果樹組合、うどん生産者組合をはじめ、個々の農家で提供できる野菜を集約して、学校給食センターに納品したいというのが趣旨です。

小平市学校給食センターへの配送はJAがする予定です。

以上で、平成24・25年度中学校給食用食材納入業者の選定につきましての説明でございます。よろしく願いいたします。

委員長

平成24・25年度中学校給食用食材納入業者の選定につきまして、新規に登録を希望している業者を重点に説明をしていただきました。ご質問等ございますか。

委員

安全が第1で、少しでも安くというのが基本だと思いますが、価格の交渉等はどのような感じになりますか。

所長

献立が決まりますと、毎月、翌月に使用する食材の見積もりを全ての業者から取ります。また、肉、果物等の見本や産地証明等を同時に提出してもらいます。価格の競争が原則ですが、見本等を参考に少々高くても品質が良い食材で

あれば高い食材を選定することもあります。しかしながら、1食あたり280円という制限もありますので、安価な食材を選定する方が多いのが現状です。

納入業者が増えることは、多少なりとも価格に競争が生まれると思いますので、食材の価格は下がるかと思っています。

委員長

その他、ご質問ございますか。

委員

今年度の地場野菜の使用状況はどうなっていますか。

所長

昨年度よりも、使用率が2%程度上がるかと思っています。昨年は、8月頃が猛暑で作付できない状況がありました。今年は、1月から低温が続いて品薄の状況で、野菜の値段が高騰しています。しかし、昨年と違い12月までは順調に地場野菜が入荷しましたので使用率は上がるかと思っています。

委員

野菜の高騰に関してですが、一般の家庭ですと値段の高い野菜をやめて、安い野菜に切り替える等しますが、給食でも臨機応変な対応はできるのでしょうか。

所長

食材を臨機応変に変えることはいたしません。予定献立表を配布してあることと、アレルギーを持つ生徒もいることから、多少高価であっても予定どおり使用します。食材が入荷しないなど特別な場合でも、他の食材は使用しないようにしています。

委員

食品全般や調味料を扱う業者の中に、丸勝かつおぶし（株）という業者が新しく入りますが、他の業者もかつおぶしが扱えるのですか。

所長

卵を扱う東京エッグ（株）、中華調味料の（有）富強食品、海苔専門の丸川海苔店、酒店の（有）石森商店を除く業者は、かつおぶしを扱えるかと思っています。かつおぶしに特化していても他の業者と競争になるとかと思っています。

委員長

その他、ご質問、ご意見等ございますか。

委員

米や牛乳は決まっているので参入していても取れないというのがありますが、他のところでも値段や見本を見て選別して行って、落札できないということがありますか。

所長

ありえます。業者登録をして毎月の見積もりを提出していただいても、落札

できない可能性はあります。

委員

業者は衛生面等の参入条件をクリアしたうえで、食材の値段や品質等を複数の業者と比べて決定される中で、実際、落札できない可能性もゼロでは無いですね。

所長

落札できない可能性はありえます。

委員長

小平町の米は行政間の協定で実施しているのですか。

所長

小平町が姉妹都市であることと、小平町の農産物等を使っていくという市の方針的なものはあります。学校給食センターでは、小平市米穀小売商組合を通じて小平町の米を使用しています。小平市米穀小売商組合は米の間屋と契約し、間屋はJA南るもいやホクレンと契約して、小平町の米を安定的に供給できるようにしています。

委員長

米は日本全国で採れるもので競争の激しい中、安くて美味しい米もあると思いますが、小平町の米を使用することについて、小平市と小平町で行政的な契約でもあれば理解できると思います。

所長

現状は姉妹都市以外の協定や契約はないと思います。小平町の農産物等を使っていくという市の方針的なものだけだと思います。

委員

お米も廻り廻って来ると値段が高くなると思いますので、小平市と小平町で行政的な契約でもあれば、小平JAや米を取りまとめている団体と直接行えばと思います。

所長

行政間で契約や取り決めはありませんが、現在、放射能の問題もあり小学校でも北海道や小平町の米を使用していこうという動きはあります。

委員長

その他、ご質問等ございますか。ないようですから、平成24・25年度中学校給食用食材納入業者を指定することに決定いたします。次に、平成24年度中学校給食実施計画（案）についてを議題といたします。説明をお願いします。

所長

平成24年度中学校給食実施計画（案）についてをご覧いただきたいと存じ

ます。給食実施期間は平成24年4月10日から平成25年3月22日までになります。3番目に年間標準給食回数とありますが、各学年とも最低回数以上食べていただきたいという数字が示してあります。4番目の各学校の年間給食予定回数及び予定給食費ですが、現在、各学校に予定回数等を調査し、調査が完了次第正しい回数を入れさせていただきます。

次に、給食費についてでございますが、平成23年度と同額の1食当たり280円で実施いたします。最近、寒さの影響で野菜等が高騰しておりますが、値上げをせず実施していきたいと思っております。しかしながら、消費税の値上げが決定された場合は、税率と物価等を加味して値上げをせざるを得ないと考えています。

給食費の徴収はゆうちょ銀行の口座振替で納入していただいておりますので、昨年同様、5月から2月まで引き落としをさせていただきます。月額5,200円で、2月のみ給食回数に応じた金額を算定し、清算する形になります。ほとんどの学年が、5,200円以下の金額になると思っております。3月の引き落としは、未納の方を対象に再度引き落としをさせていただきます。なお、1回10円の引き落とし手数料は、保護者の方の負担でお願いしております。次の、給食費会計ですが、中学校長1名、保護者代表の方2名で監査をしていただき、その結果を教育委員会に報告しております。また、学校にもお知らせすると同時に、保護者の方へは、7月の予定献立表の裏面に監査報告書を印刷し、全保護者にお知らせいたします。

7番目の献立の作成でございますが、学校給食の栄養摂取基準により、生徒1人一回当たりの平均所要量を確保しつつ、生徒の嗜好も加味し、食育の教材となるよう考えてまいります。

また、学校給食センターでは、冷凍のコロッケ等の半加工品は使用せず、引き続き原材料から作る手作りを基本としてまいります。野菜につきましては、食中毒防止のため加熱してから使用いたします。地場野菜の導入も積極的に進めたいと思っております。今年度は、現在のところ15%強程度で推移しております。

お米につきましては、年間を通じて姉妹都市小平町の「ななつぼし」を無洗米にして使用いたします。

次の、衛生管理でございますが、「食中毒は出さない」という考えの基に、衛生管理を徹底し、安全な給食を提供していきたいと考えております。また、小平市薬剤師会等のご指導をいただきながら徹底していきたいと思っております。調理従事者はもとより、事務職員に至るまで月2回の腸内細菌検査の実施や魚、肉類等の生鮮食品を扱う業者に対しても、腸内細菌検査の写しの提出を求めるなど徹底を図ってまいります。調理につきましても、食品の中心温度が85℃1分間以上になるよう徹底をしています。次に、食育でございますが、1番目は

給食用食材の予定産地の公開です。2番目として、毎月1回、食材の放射能検査を当面実施して行きますということです。いずれも小平市と学校給食センターのホームページで結果を公開いたします。

平成24年度も中学校1年生の職場訪問、2年生の職場体験を積極的に受け入れて行きます。6番目の生徒の生活習慣病予防の取り組みですが、新しく記載しました。現在も、一部の中学校で養護教諭と連携して、生活習慣病予備軍とされる生徒へ栄養の話をしています。学校でご要望があればさらに連携して行きたいと考えています。説明は以上になります。本日、ご審議いただき決定をしていただきますと、3月の教育委員会定例会に報告したのち、各学校長宛にお送りいたします。よろしく願いいたします。

委員長

説明が終わりました。ご意見、ご質問等ございますか。

委員

各学校の給食回数は、調査をした後に決定するとのことですが、学校の希望を聞いて決定するということでしょうか。

所長

給食回数は学校給食センターで決めるのではなく、各学校から上がってきた回数をそのまま実施して行きます。

委員長

今後、新学習指導要領により、授業日数確保のために始業式や終業式も授業をすることになる可能性があると思いますが、この場合、何校以上で給食を提供してもらえますか。

所長

1校だけというのも逆に大変なので、足並みを揃えていただければと思います。

委員

始業式や終業式にも給食が出ることはありがたいので、各校、足並みを揃えて実施して欲しいです。

委員

3年生は受験の時期で、出願や試験等の時に給食時間までに戻ってこれない生徒は食べられず残ってしまいます。4回位食べられないケースもあり、給食費を1,000円位余計に払うことにもなります。来年は、3年生だけでも給食を止めようかと思っています。各校の現状はどうなっているのでしょうか。

所長

都立高校の入試の日は、全校一緒です。以前、食べていた学校がありました。残食が多いのでお断りをした学校もありました。

委員

都立高校の入試は、同じ日で同じ時間で弁当持参です。私立高校の入試は3科目でお昼に帰ってこられるか、来られないか分かれるかもしれませんが、中学校は決まった日にかたまった人数がいなくなる日があると思います。このような日に、普通に3年生に給食を出していると、どれだけの量の給食が残ってしまうのだろうと心配になります。

所長

現在、入試の日については各校足並みが揃っています。願書の提出等の日は学校によってまちまちのようです。学校給食センターでは細かな日程までは把握していないところです。

委員長

その他、ご意見、ご質問ございますか。

委員

給食試食会は全校実施していますか。

所長

全校実施できていません。

委員

小平第四中学校では、一年生の保護者の方が毎年担当するよう申し送りがされていて今年も開催しました。校長会からPTA本部へ、給食試食会を各校で実施するよう言っていただくと意識も高まると思います。

委員長

学校から言うよりも、PTA連合会の席上で委員に言ってもらう方が効果的だと思います。

委員

PTA連合会の席上、言うこととします。学校からも文書等でお願いしていただければと思います。

小平第四中学校では、一昨年、全校生徒を対象にして学校給食センターの栄養士のお話がありました。生徒には食への意識が高まりますので毎年実施して欲しいと思っています。昨年は何でしたでしょうか。

委員

昨年は首都大学東京から講師を招きました。今年は野菜ソムリエの方をお願いをして、毎年、食育の講演会を実施しています。

委員

講演会とは別枠で、市内の中学校を廻る時に栄養士さんが生徒に話をするだけでも違うと思います。小平第四中学校の保健給食委員会では、ポスターを作って「食べ残しをしない」等の活動をしています。

消費税が増税になると、安くて安全なお米や野菜を入れるためには、小平町の米や地場野菜を排除するものではありませんが、種々の選択肢もあって良いのではないかと思います。

委員

お米に関してですが、今、放射能の事を考えると、安定的に確実に北海道の米を仕入れられるというのは、ありがたいことだと思っています。今、皆が北海道の米を欲しいと思っていますので、この状況を崩すのは良くないと思っています。

野菜に関しても、いろいろな所から入ってきていますが、野菜を一生懸命育てても輸送で野菜が疲れてしまう、栄養価も落ちてしまう、それを復活させて調理するのも大変な事だと思っています。

国が定める放射能の基準値以下なら安全というものではなく、あくまで摂ってはいけないと考えています。その上でなお、地場野菜は東京なので放射能も多少あるかと思いますが、その分をカバーするだけの生命力があると思います。小平市の良いところは、農家と住民が半々でおり、それを消費することによって農家を続けていけますので、良いバランスで暮らしていると思います。東京に直下型の地震があるのではないかとされている状況下で、今の良好な状況をこの先何年かでも農家も住民も維持して行くことは、万が一の時に小平市は大丈夫というか、農家に協力していただいて皆で立ち上がれるのではないのでしょうか。そのような小平市として維持・発展できれば良いと思います。

牛乳の事ですが、多少の放射能が検出されている状況がありますが、牛乳とご飯は合わないでしょうと言っても、子供は給食で出ているのでといいます。平均栄養摂取量を守るために牛乳が出るとありますが、これが根拠と言うと疑わしいと思っています。やはり、ご飯の時にはお茶を出していただくとか、現状ですと毎日牛乳を飲むリスクが大きいので、パンの時に牛乳を出す方がいいのではないかと思います。和食の時に残菜が増えるのは自然な事だと思っています。和食は少食の文化で自然にそれだけで満足できる、味が濃かったりすると、もう満腹なのに、つい食べてしまう、和食の時に残菜が出るのは自然なこととして、人に食べなさい食べなさいと言って食べさせてしまうと、お腹がいっぱいになってイライラしませんか。胃袋が大きくなってしまえば大人になって生活習慣病になってしまいます。食の乱れていない子は自分の適量がわかり、そこでストップできると思います。残食については肥料にしていますので、あまり目くじらたてなくても良いのではないかと考えています。

所長

お米の件ですが、放射能から子供を守るためにも北海道の米を使って欲しいという要望等があり、中学校給食は幸い小平町の米でした。来年度も小平町の

米を使用いたします。

牛乳に関してですが、ご飯と牛乳は永遠のテーマかもしれません。給食はカルシウムを牛乳で摂っています。カルシウムを摂るために小魚等出していますが、なかなか食べてもらえないこともあります。お茶につきましても、以前、暑い時期に月に1回程度出したことがあります。牛乳が50円なのに対し、お茶のパックは70円程度します。オレンジやりんごジュースになりますと100円近くいたします。1食当り280円で飲み物に100円を使用することはかなりきつい面がありますので、カルシウム源として牛乳になります。小平市は低温殺菌牛乳ですからカルシウムの吸収が良い牛乳です。お茶についても毎日出すというのは不可能です。牛乳を出さずにカルシウムを摂取するには、例えば、海藻等を相当量食べる必要になり、費用的にも高くつくこととなりますので、安価でカルシウムの吸収に優れた低温殺菌牛乳を、今後も使用して行くことになると思います。

地場野菜につきましても、引き続き使用して行きます。八百屋さんが市場から仕入れてくる野菜は規格が揃って扱いやすいということもありますが、できるだけ、小平産の野菜を使用していきたいと考えています。

委員長

その他、ご意見、ご質問等ございますか。ないようですから、平成24年度中学校給食実施計画（案）を承認することといたします。次に、学校給食センターからの報告をお願いします。

所長

小平市立小・中学校の給食に使用する食材の放射性物質検査結果について（第1回）と言う資料をご覧いただきたいと思います。

昨年12月に第1回目の検査を実施いたしました。既にホームページに公開してあります。中学校給食では米や牛乳等検査しましたが、不検出でした。

1月の第2回目の検査結果につきましては、本日から明日にはホームページで公開される予定になっています。今回の検査では、牛乳に微量のセシウムが検出されましたが、基準値を大きく下回っていますのでそのまま使用して行くことになります。地場野菜の白菜については不検出という結果が出ています。

放射能検査につきましては、来年度も実施するための予算を計上させていただいてあります。以上が放射能検査についての報告です。

委員長

放射能検査について、ご意見ご質問等ございますか。

ないようですから、最後に、学務課長をお願いします。

学務課長

皆様、貴重なご意見ありがとうございました。この1年間を振り返りますと、

地震の影響による計画停電があり臨時献立の給食になりましたが、今年はこのような事がないように願っております。放射能の検査につきましても公表することになっております。今回、小学校で一部検出されましたが、小学校や保護者からの問い合わせはありませんでした。検査をしているという姿勢がよかったのかと思っています。

先日、多摩小平保健所に行った際、話題として朝食の欠食が小学校に比べて中学校の方が増えているそうです。食べる時間がないなど理由は良く解らないそうです。学校給食センターでは昼食を提供していますが、生徒に朝食を食べることの大切さを啓蒙して行くのも、一つの課題かなと思っています。

皆さんの貴重な意見を基に改善して行きたいと思っておりますが、箸につきまして予算要求してありますので、2学期あたりからつけられればと思っております。本日は、ありがとうございました。

委員長

平成23年度第3回小平市立学校給食共同調理場運営委員会を終了いたします。ご協力ありがとうございました。